



船橋市議会議員

船橋清風会

ながの春信

地元前原からパワフルに発信します!!

長野 本日は公立小中学校における不登校児童の復学についてご質問いたします。現在、私は、「社会福祉士」として障がいをお持ちのため様々な障壁にぶつかりお悩みの方、また社会に溶け込めず孤立されている方などの相談、援助をさせて頂く中で、小学生、中学生の不登校で悩む保護者の方から多く相談をお受けいたします。以前から多くの先番議員よりご質問いただいておりますが、私は学習支援やフリースクールという選択の話ではなく、復学するためにはどうしたらいいか、という視点からこの不登校の問題についてお尋ねしたいと思います。

文科省は2014年度の不登校の小中学生の総数は全国で約12万3千名と発表されました。そのうち小学生が約2万6千名、中学生が約9万7千名のことです。この中には別室登校や母子同伴登校などは含まれていませんので、学校生活に不適応をする子どもの数はそれ以上に上ります。現在不登校となつた子ども達の選択肢として、民間では復学支援機関などもありますが、公立学校などの公的機関ではスクールカウンセリングがあり、大きな役割を担つて頂いております。その外には、教育委員会が運営する学習支援である適応指導教室、不登校の子ども達の居場所を学校以外のところに設けるフリースペースなどホームページケーションを法的に整備するなど学校以外の選択肢を増やしていく対応は非常に重要です。しかしこれは学校以外の選択肢の充実は、記憶に新しい川嶮事件で起こつた中学生殺害事件のような深刻な解決法をそこに求めてしまうのにはいさか違和感を感じます。不登校には様々な理由があります。それを体系的に分類するところはあまり意味がなく、不登校の数だけ原因があり、解決策があると考えて取り組む必要があるのではないかでしょうか。

以前の先番議員に対する答弁において、担任が家庭訪問を行い、学習課題を出して採点したり、自分の教室以外の別室に登校ができる児童生徒に対しては、特別のカリキュラムをつくり学習指導をするなどの支援を行つております。と「担任が中心となつて学習支援を行う」といった答弁がありましたが現在、公立小中学校において、不登校となる前段階

不登校となつた段階などの各段階において、学校復帰についても担任が対応しているといふ認識でよろしいでしょうか。また担任教員は、生徒、保護者、関係者を含めてどのようなやり取りを行い、最終的には復学といつた解決まで導こうと努力されているのでしょうか。お尋ねいたします。

学校教育部長 不登校児童生徒の学校復帰に向けた対応についてお答えします。

不登校の原因、状況や背景、また児童生徒を取り巻く環境は個々に違いますが、各学校においては、担任が中心となり、管理職はもとより、学年主任や生徒指導担当、部活動顧問などが協力し、関係機関とも連携しながら、個々の状況に応じた学校復帰に向けた取組をしております。具体的な取組としては、登下校の時間を他の児童生徒とずらす「時間差登校」や別室で個別学習を実施する「別室登校」、放課後の時間帯に登校を保す「放課後登校」など、児童生徒に状況に応じた対応により、学校復帰に向けて取り組んでおります。

また、不登校児童生徒の学校復帰には保護者の協力が不可欠であると考えております。保護者の考え方や家庭環境も様々ですので、教育委員会としましては、保護者との連携を層密にして、お互い協力して対応に努めよう、各学校に対しております。

長野 現在、公立小中学校の教員の仕事は多岐にわたつていると見えます。授業以外に生徒指導、部活動、学校行事があり、それに加え、心理・福祉面での支援、いじめ、不登校などの生活指導、さらには特別支援教育への取り組みや充実、また外部への説明会や講演会、通学路安全対策、家庭訪問、そして保護者対応などもあり、その役割は拡大し、多様化していると思います。このような状況で結果的に子どもと向き合う時間は割かれ、本来の授業等に専念することが出来ない状況が生じます。学校に求められる役割、学校が抱える課題が複雑化、多様化するに伴い、本来教員が担わない心理や福祉等の専門性が教員に求められるようになつていています。教員側から見て、不登校になつた理由すら分かつてない不登校というものが多く存在しているものと思います。

不登校のカウンセリングには児童生徒の démarch心理に関する専門的な知識、経験を有するスクールカウンセラーが行うことも多いと田

いますが、これは「来談型支援」です。この来談型支援が不登校の子どもたちすべてに効果があるとは思いません。なぜならカウンヒューラーが問題解決を行うわけではなく、相談を中心にある問題解決能力を引き出すことを目的として相談者自身が問題解決に取り組むのを基本としているからで不十分と言えます。不登校となる前に、勇気をもつて絡まつた人々を解決するという意思をもつて相談してきたりは対象になりますが、昼夜逆転の生活を送っている方や、そもそも不登校になつたら、学校に来ないわけですから来談型での対応は意味がありません。社会福祉士・精神保健福祉士といったソーシャルワーカーによる訪問型のカウンセリングなどアドトリーチ型支援により児童生徒が置かれた様々な環境問題働きかける必要があるわけです。不登校の復学支援で大切なことは、保護者の養育姿勢といった否定的な意見のやりとりや抽象論を語るのではなく具体的な方策を考えることです。それを教員のみでできるわけがない、そのためには教員以外の専門スタッフとして、SCT以外にスクールソーシャルワーカー、ICT支援員、部活動外部指導員、放課後や土曜日ににおける学習・補充学習の支援に携わるサポートスタッフなどを含めた学校を一つのチームと考え、「チーム学校」として力を合わせ、時には役割分担を行うことで不登校復学支援に取り組む必要があると思いますが、ご見解をお聞かせください。

京成電鉄線

新津田沼駅→前原駅

立体化に向けて取り組みます

◆平成28年第1回定例会において陳情採択

※陳情書から抜粋

陳情者／船橋市前原自治連合協議会

【理由】

一、JR津田沼駅北口十字路を通る県道船橋・長沼線は船橋市から、稻毛区に至る県道（主要地方道）であります。現在京葉道路の武石インター大型車通行不可のため、花輪インターを上下方面から出入りする大型車両等を含め自動車等の通行量が非常に多く、新京成電鉄上下線が頻繁に運行する朝夕においては前原6号踏切の遮断によつて長蛇の渋滞が引き起こされています。また津田沼十字路との距離も約100mと近いこともあり、一回の信号では渡れない自動車等などが、無理に津田沼十字路交差点へ侵入することにより歩行者等に危険が生じる恐れがある交差点（津田沼十字路）となつております。

二、国道296号線（成田街道）は千葉県の船橋市から匝瑳市を結ぶ主要国道であります。前原地区付近は、車道が片側1車線であり、歩道も一人が通れる幅しかなく、歩行者のすれ違いが困難な狭い道路となつています。国道296号は花輪インターを上下方面から乗り入れる大型車両を含め自動車の通行量が非常に多く、慢性的な渋滞が引き起こされています。そのうえ、新京成電鉄上下線が頻繁に運行する朝夕などは前原3号踏切の遮断により更なる渋滞が引き起こされています。

三、船橋市立前原小学校の通学路にある前原5号踏切付近は、朝になると通勤・通学のバイク、自転車、そして国道296号線の抜け道として多くの原小学校へ歩いて通学する小学生も加わるため、一旦踏切が閉まるといつては多くの方々で溢れています。そして踏切が開くと、変則5差路も影響して、急ぐ自転車や歩行者通学の小学生などとの接触などを絶ちません。

が後を絶ちません。前原3号踏切、前原5号踏切・変則5差路、前原6号踏切・津田沼十字路が後を絶ちません。



待機児童解消緊急アクションプラン実施の効果をご報告します

待機児童の増加を受け、平成27年6月に策定した市の緊急対策。「保育の受入れ枠の緊急拡大」「保育士の緊急確保」を2本柱とし、平成27・28年度の2ヶ年で保育所等整備の加速化、既存施設の定員拡大、認証保育所の拡充、保育士の就職促進などの多様な施策を組み合わせ、待機児童の解消を目指す。

緊急対策① 保育の受入枠の緊急拡大

(1・2歳の待機児童715人分を中心に保育の枠を緊急確保します。)

1. 認可保育所・小規模保育事業の効率的整備

認可保育所・小規模保育事業等17か所1,015人分
(平成28年4月開設分)を整備

2. 既存施設の定員拡大

認可保育所7施設181人分
(うち平成28年4月: 3施設80人分)の定員拡大

3. 市の認証保育所制度の拡充

7施設を新たに認証(114人分の認証保育所定員を拡大)

4. 認定こども園への移行支援

幼稚園1施設、認証保育所1施設が認定こども園へ移行

5. 幼稚園における一時預かり事業の促進

一時預かり事業(幼稚園型) 平成28年4月現在実施園18園

緊急対策② 保育士の緊急確保

(船橋市内の保育所等で働く保育士を緊急確保します。)

1. 公立保育所の保育士不足解消に向けた取組み

公立保育所の常勤職員の採用増および臨時職員賃金の増額

2. 私立保育所等の保育士の処遇を向上

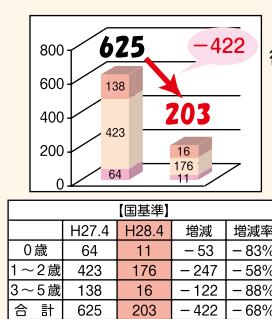
平成28年度より補助額を増額

3. 保育士のための支援施策

保育士宿舎の借り上げへの補助制度創設

4. 保育士確保に向けたさまざまな取組み

修学資金貸付制度実施/保育士確保キャラバン(関東近郊の保育士養成学校等へ訪問・説明会実施)/保育士就職支援研修会・私立保育園合同おしごと相談会/保育職場への復帰のための実習実施



JR津田沼駅北口は昭和45年6月20日に千葉県を施行者とする船橋・習志野都市計画事業津田沼駅北口土地区画整理事業として再開発が行われ今の形となりました。今後も人口増加が見込まれる地域でございます。その反面、当時働き盛りの方々も今や高齢となり、杖や車いすでJR津田沼駅に移動する姿も多く、この度の東部公民館建て替えに伴い駐輪場が確保されること、また津田沼第4自転車等駐車場の立体化に伴い、津田沼第1・第2自転車等駐車場の歩道駐輪場が解消に向かう動きに大変感謝を申し上げるとともに、今後更なるJR津田沼駅北口発展の促進について次の要望を申し上げる次第でございます。

※要望書から抜粋
要望者／船橋市前原商店会

東部公民館建替え計画とJR津田沼駅北口の更なる活性化に取り組みます。

東部公民館について
①東部公民館建て替えにあたり、県道側の共同ビルも含めた複合型建築物の検討。
②県道側に東部公民館の出入口を設け、その部分に前原交番を移動。
③東部公民館の設計にあたり、1階部分に大規模なピロティを設け、イベント(福祉祭り、夏祭り等)の開催スペースを設ける。
④平成28年4月に策定された「船橋市自転車等の駐車対策に関する総合計画」のとおり、東部公民館の建て替えの際、大規模な駐輪場を設け、現在の暫定的な津田沼駅第1・2自転車等駐車場の解消。
⑤新しくなる東部公民館を起点に、現在の老人福祉センター送迎バス同様、民間バスの本数が少ない中野木、札場町会、前原西三会など交通不便地域と船橋医療センター等を結ぶ送迎バスを運行して頂きたい。



経年劣化により剥がれたコンクリートの補修、鉄筋のサビ留め、塗装、階段部分の nonsリップ補修などが実施されます。

津田沼線人道橋修繕工事
「長寿命化修繕工事」が始まります！

～町会・自治会と共に歩む～ 地域福祉の向上

◆カーブミラー設置

設置されておりましたが、経年により撤去されました。この度、町会の強い要望もあり新しく遊具が設置されることになりました。



体まで話を進めることがで
きました。全国の空き家の総数（平成20年）は約
760万戸に及び、そのうち個人住宅が約270
万戸を占めており、適切な管理が行われていない
住宅は、防犯や衛生などの面で地域の大きな問題
となっています。

❷ 每年この暑い季節になると町会、自治会のお困
りごとは、放置された空家・空地に草や木が生い
茂り、そのまま放つておくとあつという間に背丈
の高さまで草が成長します。蚊や蛇などが発生し
ますし、犯罪
などの温床にな
るのではないかと
心配が尽きな
いものです。



②前原西に存する低地の冠水の際、道路のマンホールの黒い鉄蓋が飛びました。ゲリラ豪雨は以前より頻繁に起きるようになつてゐるので、マンホールの豪雨対策は、本現場には一刻も早く必要です。この度、改良が進んだ飛ばないマンホールに交換する工事を行いました。

◆カーブミラー設置

②県道69号線に出る道路にカーブミラーが以前設置されていましたが、なにかが追突したのでしょうか、ポールも曲がりミラーも外れた状態で放置されておりました。この度新たにカーブミラーを設置し、ポールの曲がりも調整させて頂きました。

長い距離をバックで出てきます。時には人、物、壁などに接触することがあるそうです。町会からの要望で、古い看板は撤去し、侵入口に新規の看板で、侵入車両へ早めの注意喚起をさせていただきました。

④新京成滝不動駅付近の小学校通学路に道路を遮断する横断歩道がありますが、線路を越えてすの為、車両もそのまま通過してしまった傾向があら子ども達の通学で、年長者の横断歩道を駆けめぐらす事によくあります。



◆アスファルト舗装

❶新築に伴い、砂利のまま放置されていました。歩行や車両通行にも支障があることから、本地域の町会長様を筆頭に、市役所と協議を重ねて参りました。この度、アスファルト舗装が施され、安全確保がされました。

②雨が降る、アスファルトの匂いが悪、これら部

◆階段手摺の塗装、補修、延長工事

二宮にあるこの階段は下部は腐食しガタつき、階段途中で手摺が切れており、3年を経てこの前原公園で盆踊り大会を開催します。盆踊り大会前に、草木、枝を切りたいという陳情を頂いておりました。

②前原東にある「前原公園」の草木、枝が大きく生い茂つており、電線を覆い隠すほどでした。



◆カーブミラー設置

～町会・自治会と共に歩む～ 地域福祉の向上

スファルトを剥がし、グレイニングを嵩上げし、周囲の高低差と合わせるように再度アスファルト舗装を施しました。

②前原東の二宮小学校通学路にある横断歩道はカーブがあり、見通しが悪く、コーナーの先に

◆枝木伐採作業

①中野木川は船橋市中央部を流れる海老川水系であり、前原西

